

「オール新潟による『次世代医療人』の養成」プログラムの スタートアップシンポジウムを開催しました。

平成 25 年 12 月 21 日(土)の午後 1 時から、新潟県南魚沼市立ゆきぐに大和病院の健友館多目的ホールにおいて、「オール新潟による『次世代医療人』の養成」プログラムのスタートアップシンポジウムを開催しました。

当日は、幸い大きな天候の崩れもなく、プログラム関係者、魚沼地区の医療機関の先生方や行政の方など、67 名もの皆様にご参加をいただきました。

初めに、新潟大学医歯学総合病院長の鈴木栄一先生の開会の辞の後、特別講演として、文部科学省高等教育局医学教育課大学病院推進室病院第二係長の西尾和幸様に「オール新潟による『次世代医療人』の養成事業に期待すること」と

題して、お話しをいただきました。今回の未来医療研究 人材養成拠点形成事業では、国民が将来にわたって安心して医療を受けられる環境を構築するため、各大学が理念や強み、特色、地域性等を活かし、地域の医療機関や市町村等と連携しながら、将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できる、リサーチマインドを持った優れた総合診療医等を養成することを目的としているそうです。新潟は未来の日本を先取りする場であり、ここで具体的な成果が出ることを期待していただいているということでした。



つづいて、新潟大学医学部長の高橋姿先生、魚沼市長の大平悦子様、南魚沼市副市長の岡村聡様からご挨拶をいただきました。

次に、今回の「オール新潟による『次世代医療人』の養成」プログラムについて、責任者である新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座特任教授の井口清太郎よりプログラムについて説明をさせていただきました。



医歯学総合病院の強みを生かした医歯学連携による口腔ケアへのアプローチ、嚥下リハによる誤嚥性肺炎の予防、生活不活発病への対応などを学ぶ、卒前、卒後の一貫した実践プログラムを設定し、今後急速に進む都市部の高齢化にいち早く取り組み、住民に寄り添うマインドや予防医療の視点、地域の課題に柔軟に対応する力を持ち、地域医療のリー

ダーとして活躍する総合診療医「次世代医療人」を養成することを目標としています。

つづいて、「『元気で長生き』の探求と実践～『魚沼コホート研究』とその先へ～」と題して、新潟大学大学院医歯学総合研究科健康増進医学講座特任准教授の田中純太先生に、魚沼コホート研究についてお話をいただきました。

その後、当院副院長の高木律男先生、魚沼基幹病院長の内山聖先生、新潟県地域医療推進機構理事長の荒川正昭先生に、指定発言として、それぞれの立場からこの事業に対するご要望をお話いただきました。



最後に、当院総合臨床研修センター長の成田一衛先生から、閉会の辞をいただきました。

最後まで非常に内容の濃いスタートアップシンポジウムとなりました。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

